

「小平の生き物調べ」の調査対象種と選考理由

【別添資料1】

夏編						
種類名	選考基準				選考理由	一部外来種の種名
	普及性	指標性	希少性	外来種		
アザミ類	○	○		○（一部）	田んぼの畔や林縁など、武蔵野らしい草丈の高い草地に多い。外来種については鉄道敷や道路などでも多く見られ、拡大が懸念されている。	アメリカオニアザミ
カマキリ類	○			○（一部）	夏から秋によく見かける昆虫で、肉食であり小動物が豊富でないと生息できない。加えて種類により樹林地や草地など好む環境が異なる。	ムネアカハラビロカマキリ
ヤマユリ	○	○			大輪の花を咲かせるユリの仲間で、明るい雑木林の林床や林縁の草地を好む。雑木林の手入れが行き届いているかどうかを判断する基準となる種類。	
クワガタ類	○	○	○		夏を代表する昆虫で、明るく湿度が保たれた、樹液が出やすい雑木林を好む。雑木林の手入れが行き届いているかどうかを判断する基準となる種類。	
コゲラ	○	○			小型のキツツキの仲間で、小平市の「市の鳥」に指定されている。ほどよく枯れた木や枝が残されている雑木林を好むが、街路樹などまちなかでも見られる。	
フクロウ類	○	○	○		高木の発達した樹林で営巣する種類が多い。広大な草地で越冬する種類もいる。多くが東京都の絶滅危惧種に指定されるなど、希少性が高い。	
カエル類 (秋・冬編と共通)	○	○	○	○（一部）	水と陸を歩き来する種類が多く、雑木林と池が隣り合うような、複合的に生息環境を必要とする。変化に富んだ生態系の象徴となる種類である。	ウシガエル
サギ類 (秋・冬編と共通)	○	○	○		浅い水辺で小魚やカエルなどの小動物を捕食するため、生物が豊かな水辺の象徴となる大型の鳥類である。	

秋・冬編						
種類名	選考基準				選考理由	一部外来種の種名
	普及性	指標性	希少性	外来種		
ススキ	○	○			風習で飾り物に使用されるなど、文化的にも人間と深い関係にある、武蔵野の草原を代表する種類。	
イナゴ類	○	○			水田などの高茎草本がまとまって生えている場所に多い。種類によって好む草の高さが異なるため、イナゴ類が豊富だと、豊かな草むらが残っていることの証拠になる。	
ホンドタヌキ	○	○			人里近くの農地や雑木林を好み、都市化にも比較的強い。まちなかにわずかに残る緑地の象徴となる種類である。	
アライグマ	○	○		○	北米原産の外来種で、急速に生息域を拡大している。農作物や建築物に被害を与えるほか、生態系への被害も深刻である。	
ガビチョウ		○		○	アジア原産の外来種で、急速に生息域を拡大している。藪状に茂った場所を好み、同じ環境を好むウグイスなど来種との競合が懸念されている。	
トカゲ類	○	○	○		日当たりが良い草地や雑木林などで、日光浴をしている姿がよく見られる。雑木林や草地の手入れが行き届いているかどうかを判断する基準となる種類。	
カエル類 (秋・冬編と共通)	○	○	○	○（一部）	水と陸を歩き来する種類が多く、雑木林と池が隣り合うような、複合的に生息環境を必要とする。変化に富んだ生態系の象徴となる種類である。	ウシガエル
サギ類 (秋・冬編と共通)	○	○	○		浅い水辺で小魚やカエルなどの小動物を捕食するため、生物が豊かな水辺の象徴となる大型の鳥類である。	

春編案						
種類名	選考基準				選考理由	一部外来種の種名
	普及性	指標性	希少性	外来種		
ラン類	○	○	○		クヌギやコナラなどの樹木と共生している種類が多い。特にキンラン・ギンランなどは樹木・菌類が健全・多様でないと生育できず、豊かな雑木林の象徴となる。	
カントウタンポポ	○	○			外来種セイヨウタンポポにより、圧迫されている。多様な在来種が残る場所ではセイヨウタンポポが入れずに、本種が群生する様子が見られる。豊かな草地の象徴。	
ウラナミアカシジミ		○	○		雑木林を代表するクヌギやコナラなどを食樹とする。他のシジミチョウ類と比較して若い木を好む傾向があり、更新伐採などよく手入れされた雑木林の指標になる。	
イトトンボ類	○	○	○		水辺の代表であるトンボ類の中でも、流れのない止水を好む。産卵などで水草に強く依存しており、植生豊かな池の象徴となる種類である。	
ハクビシン	○			○	アジア原産の外来種で、急速に生息域を拡大している。農作物や建築物に被害を与えるほか、生態系への被害も深刻である。	
ウグイス	○	○	○		さえずりが親しまれている種類だが、警戒心が強く姿を現さない。隠れ場所となる、様々な高さの木が混在する階層構造が発達した、多様性豊かな樹林の指標になる。	
ヘビ類	○	○	○		種類により、鳥類・両生類・ネズミ類・爬虫類など、食べ物の好み異なる。ヘビ類が多様であれば、その地域の小動物が多様であると言える。	
カエル類 (全季節共通)	○	○	○	○（一部）	水と陸を歩き来する種類が多く、雑木林と池が隣り合うような、複合的に生息環境を必要とする。変化に富んだ生態系の象徴となる種類である。	ウシガエル

※本事業では、春編は対象ではないが、今後、春の調査を実施する際の参考になるよう案を示した。